

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
船橋情報ビジネス専門学校	昭和56年9月22日	鳥居高之	〒 273-0005 (住所) 船橋市本町7-12-16 (電話) 047-425-1051				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人三橋学園	昭和41年9月21日	鳥居高之	〒 273-0005 (住所) 船橋市本町7-12-16 (電話) 047-425-1051				
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
工業	工業専門課程	情報ネットワーク科	平成14(2002)年度		平成26(2014)年度		
学科の目的	情報システム構築に必要な技術と、ネットワーク、情報インフラ構築に必要な技術을合わせて習得、社会人として必要な能力の養成、企業に役立つ人材の育成を目的とします。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	教科書で学んだ知識を、実際に機器の設定などの実習を通して「仕事にすぐ使える」技術力として修得することができます。 R4卒業生 情報処理技術者試験合格実績 レベル3: 応用情報技術者試験1名、レベル2: 基本情報技術者試験7名、情報セキュリティマネジメント試験7名、レベル1: ITパスポート試験17名。シスコ技術者認定試験合格実績: CCNA40名。文部科学省後援 ビジネス能力検定 ジョブパス 3級77名。MTA Networking Fundamentals56名 R4中途退学者5名、中退率: R4.4.1在学者174名、R5.3.31在学者169名、中退率2.9%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位数時間、単位いづれかに記入 62単位	74単位	38単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内訳)(B)	留学生割合(B/A)				
160人	155人	0人	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		84人				
	■就職希望者数(D)		81人				
	■就職者数(E)		81人				
	■地元就職者数(F)		8人				
	■就職率(E/D)		100%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		10%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		96%				
	■進学者数		0人				
	■その他						
	(令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) IT情報サービス業、情報通信業、一般企業の情報処理部門							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		有				
当該学科のホームページURL	https://www.chiba-fjb.ac.jp/www/course_n.html						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
うち必修授業時数		単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間					
(B: 単位数による算定)							
総授業時数		112単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		14単位					
うち必修授業時数		108単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		14単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であつて、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		1人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0人				
	計		3人				
上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

IT業界の動向や人材ニーズを、IT企業、システム利用者、地域IT業界団体から成る教育課程編成委員会から直接情報を得て把握する。あわせて卒業生の就職先企業からの要望のアンケートも参考とする。また学校の自己評価および学校関係者評価、ならびに全生徒に対し学期末ごとに実施される授業理解度調査からも教育課程への課題を得る。これらを総合してより実践的に情報システム構築を行うシステムエンジニア、プログラマの育成をめざす教育課程の編成を行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は学校長に任命され、年に2回以上招集される。年度末に行う委員会において教務部長から次年度の教育課程の原案を受取り委員会で審議し結果を教務部長に報告する。教務部長はこの審議結果を実務的かつ専門的な観点からの助言として、それを参考に教育課程案を作成して校長決済を受ける。この教育課程案を理事会審議にかけ承認を得て次年度の正式な教育課程とする。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
鳥居 高之	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
杉山 剛	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
森田 秀明	船橋情報ビジネス専門学校	R3.10.1～R7.9.30(4年)	
武次 靖雄	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (株式会社 エー・シー・イー 代表取締役)	R3.10.1～R7.9.30(4年)	①
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	①
西島 富久	株式会社勸楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	③
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	③

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(10月、2月)

(開催日時(実績))

令和4年度第1回 令和4年11月 8日 17:00～18:00 令和5年度第1回 令和5年10月31日 17:00～18:00

令和4年度第2回 令和5年 2月17日 17:00～18:00 令和5年度第2回 令和6年 2月17日 17:00～18:00 予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

ネットワーク上のセキュリティ科目強化の提言があり、ネットワーク構築上セキュリティシステムの脆弱な面を学習し、実際のテスト演習を行う科目の検討する。知識概念が中心で実装に関しては十分な時間が取れていない面もあり、サーバセキュリティのサーバ・パラメーターの設定・セキュアコーディングを実習する時間を多く割ける授業構成とすることを検討する。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業等と連携する演習においては連携先企業等の担当者を含め、実習・演習の計画時、実施中、評価のそれぞれのフェーズにおいて科目担当の本校所属教員への助言等の連携を密に行う。評価においては連携の結果を生徒にフィードバックする。また、実習・演習を実践的なものにするために必要に応じて適宜、実習・演習の場にも企業等の参加者が参加する。尚、実習の・演習の企業と連携した計画は職員会議にて報告し承認を受ける。実施時の連携状況・連携結果についても適宜職員会議にて報告し指示を受ける。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

ネットワーク、セキュリティの各分野において、それぞれLinux Professional institute(LPI) 日本支社、シスコシステムズ合同会社から教材提供及び技術支援を受けている。

(3) 具体的な連携の例 ※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
シスコネットワーク演習Ⅰ	シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者に必要とされる知識と技能を修得する。	シスコシステムズ合同会社
シスコネットワーク演習Ⅱ	シスコ・ネットワークングアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者に必要とされる知識と技能を修得する。	シスコシステムズ合同会社
Linuxサーバ構築Ⅰ	AlmaLinuxを用いてOSの役割やLinuxについて学び、Linuxの操作コマンドを修得する。	Linux Professional institute(LPI)
Linuxサーバ構築Ⅱ	Linuxサーバ構築Ⅰで学んだことを活かしつつ、各サーバの構築を行う。	Linux Professional institute(LPI)

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

教員研修規定に従い教員は年度研修計画通り知識技術教育・授業及び生徒に対する指導力の研修を受ける。研修計画は学科長と教務部長が教育課程編成委員会等から得た業界動向と、各教員の能力、担当業務、昇格等を基に計画する。知識技術教育はWebデザイン、情報システム構築に関し、その分野の知見のある企業等と連携する。指導力の研修も十分な知見を持つ企業等と連携する。研修の実施は企業等の主催又は講師の派遣を受ける。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: ITトレンドEXPO2023Winter 連携企業等: 株式会社Innovation&Co.  
 期間: 2023/2/10 対象: ネットワーク担当教員  
 内容 ①自分のメンタルマネジメント ②自分とのコミュニケーション ③健康のマネジメント

研修名: スポーツIT実証講座 連携企業等: 文部科学省  
 期間: 2023/1/24 対象: 教員全員  
 内容 ①ウェアラブルデバイスを用いた体カトレーニング ②バイタルデータの意味と解析など

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: メンター研修 連携企業等: 株式会社インソース  
 期間: 2023/3/6 対象: 教員全員  
 内容 1. メンターとは2. 良いメンターになるために3. メンタリングのポイント4. メンターに必要なコミュニケーション力5. モチベーションを向上させるフィードバック

研修名: 資格合格に向けての準備、心構え 連携企業等: 学内研修  
 期間: 2023/2/28 対象: 入校3-5年目の教員  
 内容 なぜ資格を学生に取得させる必要があるのか・動機づけ・合格までのプロセス・テクニックと体制

研修名: 教師内部研修 連携企業等: 学内研修  
 期間: 2023/3/15 対象: 教員全員  
 内容 ・本校教師としての使命役割・理想の教師像・教育を行う上で大切なこと・本校の教育理念

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 時間力講演会 連携企業等: 星渉出版記念講演会  
 期間: 2023/9/30 対象: セキュリティ担当教員  
 内容 ・効率的な時間の使い方・結果＝使った時間×行動で評価・行動レベルを上げるには①決断力②視点③シングルタスク・シスメックのサイバーセキュリティの取り組みについて・セキュリティ業界の仕事

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 2023年度ハラスメント研修 連携企業等: 株式会社エデュースキャリアデザイン  
 期間: 2023/8/8 対象: 教員全員  
 内容 学校現場で起こりうるハラスメントの留意点を学び、事例を考察する

研修名: 就職活動における教員のスキルアップ研修 連携企業等: 学内研修  
 期間: 2023/9/4 対象: 教員全員  
 内容 ①FJBの現状(就職状況・実態)②ITゼネコンと賃金格差③独立系、メーカー系、ユーザー系の違いや特徴など

研修名: 学校コンプライアンス講座 連携企業等: 株式会社エデュースキャリアデザイン  
 期間: 2023/4/6 対象: 新入教員  
 内容 ・法令遵守の重要性及びリスク管理。・法令違反の影響の理解

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

本校の学校関係者評価委員は、評価の透明性が保てるよう全員本校の教職員以外で無償化にて参加とし、特に企業等のメンバーは職業実践的専門的評価に資する就職先業界から選出する。委員会は学校自己評価、学校の現状に関する関連資料等を踏まえて、学校自己評価の内容、今後の改善方策、実際の取組、各々が適切であるか審議し助言を行う。この助言は、学校運営、教育活動の改善と自己評価の改善方策の検討において活用する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

全体の評価を通じて特に不適とする点は委員会では指摘されなかった。教育活動及び学生支援、学修の成果について確認がなされた。課題であった企業連携授業の取組み方では、通信企業様主催でDX教育の授業を行った。実務者経験者が講師を務める講義は学生にとって大きな刺激で動機付けとなった。コロナ感染者増で学習機会の確保に苦慮したが教職員が補習等を行い高度情報処理技術者試験資格22名、応用情報技術者試験資格71名、基本情報技術者試験は448名が合格した。学生支援については高等教育無償化制度が全学科対象校として認定されており、授業料減免を受けられる体制を構築している。グローバル化対応は今後の課題として検討していくこととした。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年10月1日現在

名前	所属	任期	種別
武次 靖雄	公益社団法人千葉県情報サービス産業協会 (株式会社 エー・シー・イー 代表取締役)	R3.10.1～R7.9.30(4年)	業界団体等委員
藤井 洋一	日本ナレッジ株式会社	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
宮津 隆久	船橋商工会議所	R5.10.1～R7.9.30(2年)	経済団体委員
西島 富久	株式会社働楽ホールディングス	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
菅井 美賢	株式会社ピーエスシー	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
町田 一哉	株式会社ベイス	R5.10.1～R7.9.30(2年)	企業等委員
山崎 健太郎	株式会社myふなばし	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員
中尾 佳子	株式会社サクラ	R3.10.1～R7.9.30(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ))

URL: URL:https://www.chiba-fib.ac.jp/www/disclosure/hyouka\_kankeisha.pdf

公表時期: 2023年11月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の基本情報、教育活動や学校運営についてホームページにて情報公開し広く周知する。情報公開に当たり情報の信頼度を保つため、内容変更が発生する都度、正確性、利便性等の確認の上、広報部長の承認を得る。具体的な内容は、学校の指導方針・人材養成目的、高等学校等の進路指導のための情報、職業実践専門的な実習・就職指導等の企業連携に関する情報、教育活動の成果・実績、教育プログラム等とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要と沿革、年間スケジュール
(2) 各学科等の教育	入学案内、学科案内、資格情報、就職情報、主な就職先一覧
(3) 教職員	教職員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	企業向け研修講座、IT設備、就職情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間スケジュール、活動紹介
(6) 学生の生活支援	キャンパスライフ、学費支援
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費支援
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、学校関係者評価結果
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL: <https://www.chiba-fib.ac.jp/www/index.html>

公表時期: 2023年11月30日

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報ネットワーク科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		シスコネットワーク演習Ⅰ	シスコ・ネットワークアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者に必要とされる知識と技能を修得する。	1前	144	8	○			○	○		○	
2	○		シスコネットワーク演習Ⅱ	シスコ・ネットワークアカデミーのカリキュラムをベースに、ネットワーク技術者に必要とされる知識と技能を修得する。	1後	108	6	○			○	○		○	
3	○		検定対策Ⅰ	CCNA、ITパスポート試験、MOS Excel、情報検定、漢字検定、ジョブパスに合格するための学習を行う。	1前	72	4	○			○	○			
4	○		検定対策Ⅱ	CCNA、ITパスポート試験、MOS Excel、情報検定、漢字検定、ジョブパスに合格するための学習を行う。	1後	72	4	○			○	○			
5	○		プログラミング演習Ⅰ	Java言語の基本的な使い方や基本制御構造、開発環境などについて学習する。テキストを使用して講義を行い、パソコンでプログラムを組み上げ、課題や筆記の小テストを実施し、知識の定着を図る。	1前	72	4	○			○	○			
6	○		プログラミング演習Ⅱ	オブジェクト指向プログラミングについて学び、総合演習としてアプリケーションの開発を行う。	1後	72	4	○			○	○			
7	○		コンピュータシステムⅠ	ITパスポートの分野を中心に講義を行い、コンピュータの基礎知識、ビジネス用語を習得する。	1前	72	4	○			○	○			
8	○		コンピュータシステムⅡ	ITパスポートの分野を中心に問題演習を行い、コンピュータの基礎知識、ビジネス用語を定着させる。	1後	36	2	○			○	○			
9	○		アルゴリズムとデータ構造	基本情報技術者試験アルゴリズム分野を中心に講義・問題演習を行い、基礎知識、ビジネス用語を定着させる。	1後	36	2	○			○	○			
10	○		Office 演習Ⅰ	表計算ソフトExcelを基礎から学び、資格の取得を目指す。	1前	36	2	○			○		○		
11	○		Office 演習Ⅱ	表計算ソフトExcelを基礎から学び、資格の取得を目指す。	1後	36	2	○			○		○		
12	○		卒業研究Ⅰ	システム開発の一連の流れやチーム開発を経験する。	2前	108	6	○			○	○			
13	○		卒業研究Ⅱ	システム開発の一連の流れやチーム開発を経験する。	2後	108	6	○			○	○			
14	○		Linuxサーバ構築Ⅰ	AlmaLinuxを用いてOSの役割やLinuxについて学び、Linuxの操作コマンドを修得する。	2前	72	4	○			○	○		○	

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報ネットワーク科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	記 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択					講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
15	○			Linuxサーバ構築Ⅱ	Linuxサーバ構築Ⅰで学んだことを活かしつつ、各サーバの構築を行う。	2後	72	4	○			○	○		○
16			○	データベース構築	エンジニア業務やWebアプリケーション作成に必要なデータベースの基礎知識を学習する。XAMPPやphpMyAdmin等の実務ツールを使用し、Webアプリケーション作成を見据えたデータベース構築を行う。	2前	36	2	○			○	○		
17	○			ネットワーク構築Ⅰ	シミュレータソフトを利用し、ネットワークの構築を行う。技術的レベルを向上させる。	2前	36	2	○			○	○		
18	○			ネットワーク構築Ⅱ	シミュレータソフトを利用し、ネットワークの構築を行う。技術的レベルを向上させる。	2後	36	2	○			○	○		
19	○			プログラミング演習応用Ⅰ	動的なWebアプリケーション開発に必須となるPHPの基礎知識を学習する。 XAMPPやphpMyAdmin等の実務ツールを使用し、データベースとの連携を行いながらアプリケーションの作成を行う。	2前	36	2	○			○	○		
20	○			プログラミング演習応用Ⅱ	動的なWebアプリケーション開発に必須となるPHPの基礎知識を学習する。 XAMPPやphpMyAdmin等の実務ツールを使用し、データベースとの連携を行いながらアプリケーションの作成を行う。	2後	36	2	○			○	○		
21	○			Office演習応用Ⅰ	Excel：会社でよく使われる機能を中心に、基本機能を確認し、応用機能を学ぶ。	2前	36	2	○			○			○
22	○			Office演習応用Ⅱ	Word：よく使われる機能や体裁よくする機能を学ぶ。 Excel VBA：マクロ機能の基本を学ぶ。	2後	36	2	○			○			○
23	○			プレゼンテーション演習	プレゼンテーションをするための一連の流れを学習し、定着させる。	2後	36	2	○			○	○		
24			○	ITインフラ総合演習	実機を利用し、ネットワークの構築を行う。技術的レベルを向上させる。	2後	36	2	○			○	○		
25	○			検定対策応用Ⅰ	社会に出た際に必要となる技術・資格を各自設定をし、取得に向け問題演習を実施する。	2前	72	4	○			○	○		
26	○			検定対策応用Ⅱ	社会に出た際に必要となる技術・資格を各自設定をし、取得に向け問題演習を実施する。	2後	36	2	○			○	○		
27	○			ビジネス実務	社会人にとって必要な仕事・人間関係・マネーなどのビジネス能力の基礎を学び、実務に即した知識技能を身につける。	1前	36	2	○			○			○
28	○			キャリア概論	就職活動を始める前に必要な知識を学習し、自己理解を進めていく。	1後	36	2	○			○	○		



授業科目等の概要

(工業専門課程 情報ネットワーク科)														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
29	○		就職講座A	就職活動の流れを知り、自己分析や企業研究ができる力を身につける。内定をいただくためにやるべきこと、必要なことを考える。	1後	36	2	○			○	○		
30	○		就職講座B I	就職活動におけるSPI試験対策を行う。	1前	36	2	○			○	○		
31	○		就職講座B II	就職活動におけるSPI・CAB・GAB試験対策を行う。	1後	36	2	○			○	○		
32	○		社会人基礎力 I	経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事の運営により養う。	1前	36	2	○			○	○		
33	○		社会人基礎力 II	経済産業省が提唱する社会人基礎力を、様々な学校行事の運営により養う。	1後	36	2	○			○	○		
34	○		キャリアデザイン I	経験学習を通じ内省により自己のキャリアデザインを確立させていく。	2前	36	2	○			○	○		
35	○		キャリアデザイン II	経験学習を通じ内省により自己のキャリアデザインを確立させていく。	2後	36	2	○			○	○		
36	○		就職講座A応用	社会人として必要な12の基礎力について、ケーススタディとグループディスカッションを通して理解と自己評価を行う。社会の仕組みや人間の思考の基本概念から、社会人としてのあり方を考える。	2前	36	2	○			○	○		
37	○		ビジネス文書	実務に役立つ文書作成の知識と技術の全般を学ぶ。また、文章を正しく理解したうえでビジネス文書を作成する。	2後	36	2	○			○		○	
38	○		社会人基礎力応用 I	様々な学校行事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	2前	36	2	○			○	○		
39	○		社会人基礎力応用 II	様々な学校行事を題材に、社会人としてのヒューマンスキル向上を目指す。	2後	36	2	○			○	○		
合計					39	科目	112 (2,016) 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：62単位を取得し、全ての必修科目と選択必修科目を修得していること。	1学年の学期区分	前後期
履修方法：必修科目の他に選択必修、任意選択科目によって履修する講義・演習時間が変わる場合あり	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。